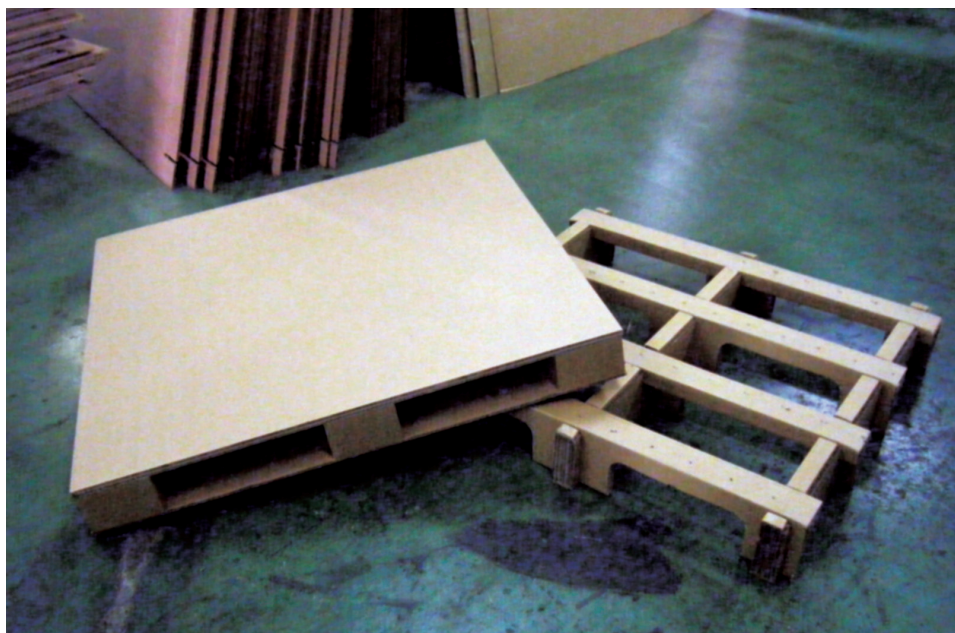


京阪紙工株式会社

木製品に劣らない強度を
段ボールで実現

納期
相談
企画力
自信有
オンリー
ワン技術
メイドイン
ジャパン
試作可
小ロット



木製並みの強度を誇る強化段ボール製の物流用パレット

業務
内容梱包箱やパレットを
段ボールで

事業の80%を占めるのは強化段ボールの加工と販売。モーターやポンプなど重量のある自動車・機械部品を輸送する梱包箱のほか、船や航空機に積み込む物流用パレットなどを主力に事業展開している。製品の特性上求められる十分な強度を持ちつつ、大幅な軽量化を実現し、使用後の処分コストも軽減した。さらに、海外との輸出入でも使用されるため、害虫駆除の観点からも大きなメリットを持つ。

屋内での使用をメーソーターゲットに据え、従来の木製品からの置き換え需要を狙っている。

強み
強化ライナーを
独自ルートで調達

強化段ボールといえば、内部の芯を強化するのが一般的。だが同社の秘訣は、ライナーと呼ばれる段ボールの外側の紙にある。坪量（1㎡あたりの紙の重量）が通常の2倍近い440gもあり、このライナーを2層または3層にした段ボールを使用している。1㎡四方の箱を作った場合、耐重量はなんと3t。このライナーはアメリカ製で、日本の製紙メーカーでは製造していない。

また、組立作業に特化するのではなく、箱の設計から自社で手がけているのも特徴。これにより、柔軟な製品づくりに対応している。

自
製品大反響となった
緊急非常用簡易トイレ

現在大きな注目を集めているのが、

強化段ボールを用いた緊急非常用簡易トイレ「@（アット）トイレ」。持ち運び容易な箱から取り出して素早く組み立て、ビニール袋を被せて使用する。東日本大震災をきっかけに、災害時に深刻となるトイレ不足の解決策として開発した。強度は約1tもあるため、適切に使えば何年でも使用可能。

平成26年から小売店向けに本格的に販売を開始。これまで異業種との交流は続けていた住谷正司社長だが、あまりの反響の大きさに驚いたという。これを契機に本業の強化段ボールの受注増加にも期待する。



災害時の活用を見込む簡易トイレ

今後の
展望
異分野との
コラボレーションを

ただ単に木製品を段ボール製品に切り替えるだけでは、商品の訴求力は小さい。そのため、「今まで作られていないものを段ボール化したい」と住谷社長は方針を語る。

地域への貢献活動にも積極的に参加し、平成27年秋に大阪府の淀川河川敷で実施された能舞台イベントでは、同社の強化段ボールによる「数席が設置された。強度の面では、音楽イベントなどの特設野外ステージの足場にも十分応用が可能という。

段ボール箱の国内向け需要の縮小傾向が進む中で、「違う分野とのコラボレーションを続け、新しいことをやりたい」と意気込む。

COMPANY PROFILE

京阪紙工株式会社

大阪
27当社の
歴史

創業者である私の父で現会長の住谷正喜は、国内初の3層強化段ボール製造を始めた山田ダンボール（株）の出身。創業以来、強化段ボールの独自ノウハウを持ち、木箱製品から段ボール箱製品への切り替えを提案し続けてきました。単なる受注生産ではなく、梱包設計から自社で独自に手がけることで、差別化を図っています。

長年の3層強化段ボールが、高い評判を得ています。
今後は分野を超えて、商品展開を強化していきます。

代表取締役 住谷 正司さん



■主な事業内容

3層強化段ボールケース、
段ボールパレットの製造・
販売

■主な取引先（納入先）

自動車部品メーカー、工作
機械・産業機械メーカー

住 所／〒574-0064
大東市御領
3-5-60

T E L／072-873-8393
F A X／072-873-8372

創 業／昭和56年3月
設 立／昭和58年3月
資本金／1,000万円
従業員／10名

<http://www.keihan-shikou.com/>